

## フォトモンタージュの創作における応用研究 —「台湾写真家群像」の作品表現を例に—

The Use of Photo Montage on Image Creation :  
The Portrait Series of Taiwanese Photographer

高 志 尊

Kao, chih-chuan

台湾では難解な現代美術が続々と現れ、観客は早くから美術館に設置された不思議な芸術作品に慣れさせられてきた。芸術作品の美学的システムあるいは表現媒材の境界線は崩れ始め、私のように長年、伝統的な銀塩写真に親しんできた者にとって、デジタル写真がついに今世紀のテクノ・アートの主要な媒材となったというこの事実に対し、いたるところで写真を媒材として選択している以上、自ら作品の中でそれに対して答えを出していかなければならないだろうと考える。「台湾写真家群像」シリーズは、デジタル技術が日増しに成熟する環境の中でスタートしたものである。

1999年12月、私は「台湾写真発展史」を研究テーマとし、フィールドワークを行ってきた。写真家を1人ずつ訪ね、資料などを収集するほかに、訪問した写真家を写真に撮り、また写真家本人やその家族が提供してくれた代表的な作品もカメラに収め、これによってかなり大きな映像資料バンクを作ることができた。このため、これらの写真家の肖像をいかにしてつなぎあわせ、彼らの代表作をテキストとして、台湾写真史の発展の流れと、膨大な作品をもう一つの自分の作品として表す方法を考えた。そして従来の写真にコンピュータの画像処理の表現方法を組み合わせて、「台湾写真家群像」という連作が制作上、最もよい方法なのではないかと思いついたのである。

「台湾写真家群像」は、台湾写真史という歴史を作品の主軸としたもので、まずそれまでの文献などによってフィールドワークの対象とすべ

き人物を選ぶことから始まった。その創作の目的は、この「台湾写真家群像」シリーズによって19世紀以降の台湾の写真創作の発展状況をつなぎあわせ、台湾の写真史の軌跡と輪郭を構築していくことにある。

この連作のテーマは「台湾写真家群像」で、創作の主要な内容は「台湾写真発展史」における代表的な作家のポートレートである。前述したように、今回の作品では台湾の写真家の系譜を主軸とし、写真家の肖像やその代表的な作品をテキストとし、写真家の「肖像」の形成によって、私は19世紀以降の台湾写真発展の流れをつなぎ、台湾写真創作の発展の歴史の軌跡を「台湾の写真の起源」、「1895-1945年日本統治時代の写真」（「日本軍台湾制覇の記録」「人類学者鳥居龍蔵」「台湾写真の萌芽期——写真館時代の到来」「台湾第一世代の写真家の登場」）「1945年～1960年代戦後の写真の変転」（「中国『サロン写真』の移植」、「『写実撮影』の始まり」）、「1970年代の『V-10視覚芸術群』」、「郷土への思いから『報道写真』の台頭」、「『百花繚乱』—1980年代以降」、「『心象写真』—美しさの経験の再現」、「『ファインアート・フォトグラフィー』（Fine art Photography）」、「1990年代以後——個人の主観的な『写実写真』の実践」……など台湾写真の歴史を構築し、その豊かな内面と容貌を表現することを意図した。

「台湾写真家群像」シリーズ作品の創作概念は、私個人の「視点」から出発しており、台湾写真発展史を見渡すことで、先輩写真家の写真作品の豊かさを実感し、彼らが与えてくれた教えを学び、吸収して、私自身の写真芸術の人生にお

いて新たに成長したいと考えた。

このシリーズ作品は「フォトモンタージュ」の手法で、デジタルのハイテク技術を用いた。制作方法はまず写真家の肖像を撮影し、「フォトモンタージュ」<sup>(1)</sup>手法で、コンピュータでデジタル画像をつなぎ合わせ、その後、高画質のプリンターで耐久性のある写真をプリントアウトし、最後に大型の肖像作品として表装するというものである。当初の目標としてすでに33の写真家のポートレートを完成させた。2001年12月に「国家文化芸術基金会」の奨励金を得たもので、初期の成果は「台湾写真家群像」というテーマで2002年4月に福岡市立美術館で初の展示を行った。新しい創作形式は、常に私たちに無限の想像と反省をもたらす。写真は旧世代からの記録形式であり、新世紀の芸術表現の媒材でもある。コンセプト・アート、ランド・アート、アクション・アートなどが過去のものとなり、残された写真だけが歴史の唯一の証明とテキストになる。特に、現在のデジタル映像革命の新時代、写真芸術はすでに国境のないインターネットの新美学の場に入っており、そこで開発された領域は無限に広い。「台湾写真家ポートレート」シリーズで掲げたのは、そのほんの小さな部分であり、さらに多くの人々が写真芸術というこの領域を開発し、より輝かしい美しい花を咲かせることを期待するばかりである。

表現手法や形式的な意味の考察はさておき、再び「台湾写真家群像」シリーズの創作意図を見ると、そこには時空両方にかかる大きな意義がある。このテーマは当初は「台湾写真発展史」であり、大量にインタビューをし、その対象のポートレートと写真家本人、その家族が提供した代表的な映像資料を蓄積し、さらにこれらの写真家のポートレートを関連付け、写真家で作品を代表したテキストとした。これは台湾の写真の歴史を明らかにしようとしたものである。こうして、この作品のテーマは、資料として参考することも可能であり、造型の連結という面でも楽しめる。写真創作者兼教育者として、台

湾写真発展研究が蓄積した成果に基づき、画像の表現、伝達を通じ、そこに収めた対象や自身の観点に関わらず、台湾写真の発展の時空の機軸の中に現段階での歴史的意義が見えてくるのではないだろうか。

本論では、創作のプロセスについて理論を交えながら論じ、最後に平面作品とCD-ROMによる短編で、この連作の主な成果を見せたい。

注(1) 「『合成』とも俗称される。すなわちすでにある画像(印刷物を含む)を主な材料とし、切り張りを行うことで新しい作品を作り出すことで、その中にもし暗室での引伸し作業や撮影手段などが行われて完成したものは、モンタージュと呼ばれる」。游本寛『超現実主義撮影』、遠流出版社、1995、129ページ

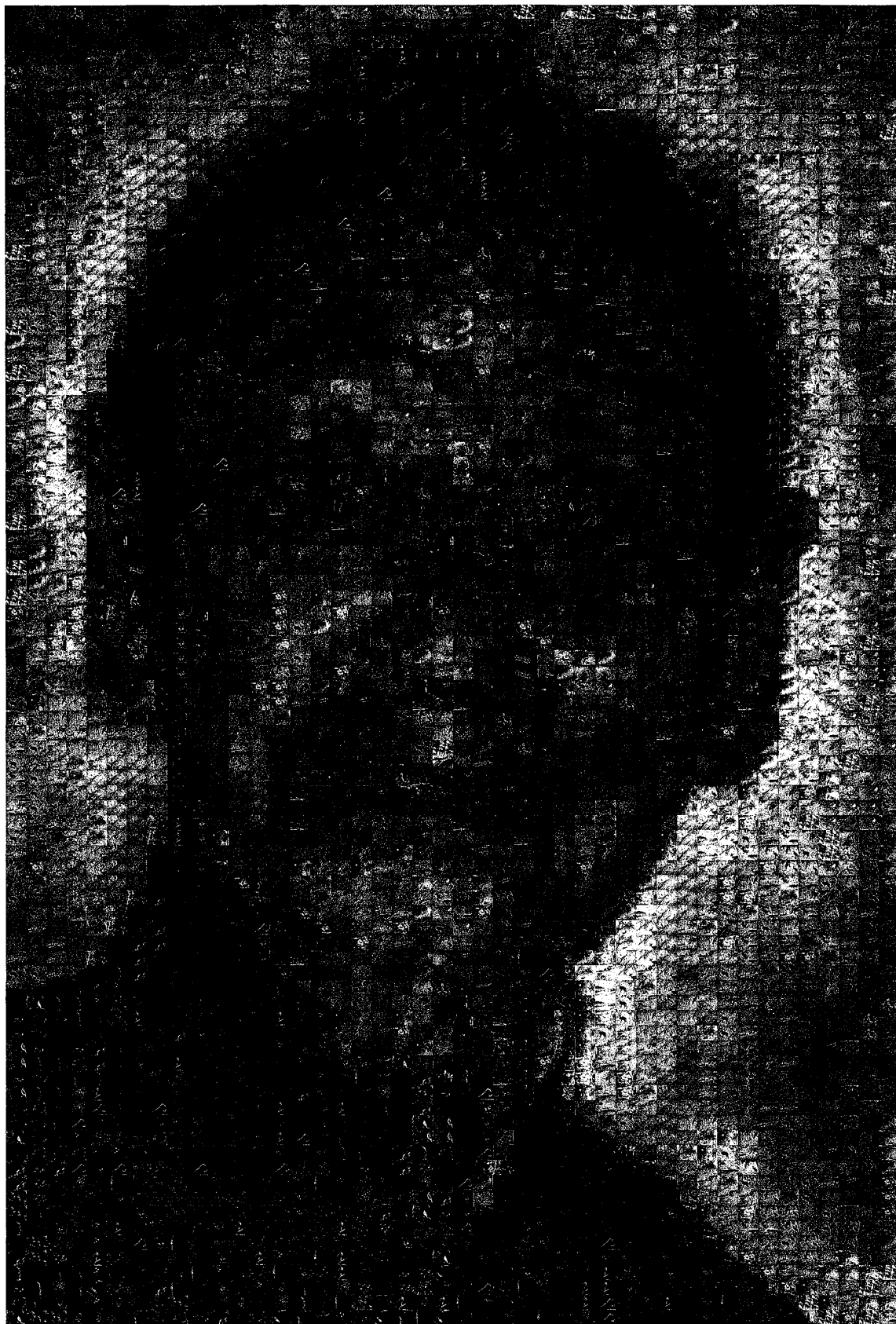


図1. 「郎静山」, インクジェットプリント, 124×186cm, 1999



図2. 「セルフポートレート」,インクジェットプリント,124.2×183cm,2003



図3. 「セルフポートレート」右下の局部

### 〈中文要譯〉

影像蒙太奇在創作中之應用研究

——以「台灣攝影家群像」作品表現為例

面對台灣分崩離析的當代美術，觀眾早已習慣美術館內各式光怪陸離的藝術創作。當藝術作品的美學機制或表現媒材的疆界開始崩解，對吾等長期浸淫於傳統「銀鹽相紙」(Silver Printing)的攝影者而言，「數位影像」(Digital Photography)終於擠身新世紀「科技藝術」(Techno-Art)主要媒材的此一事實，在在都使選擇影像為媒材的我們，必須主動地在創作中作出回應，「台灣攝影家群像」系列即從數位科技日臻成熟的環境背景下出發。

1999年12月，筆者開始以「台灣攝影發展史」為研究主題，進行田野調查工作，透過一一參訪攝影家的機會，除蒐集文件資料外，同時亦拍攝受訪者之肖像、翻拍攝影家本人或其家屬提供之代表性作品，從而建立可觀的影像資料圖庫。因此，當構思如何串聯這些攝影家的肖像，以他們的代表作品為文本，將整個台灣攝影史之發展脈絡，及其龐大的影像內容以創作形式呈現出來時？傳統攝影結合電腦影像處理的表現方式，於是成為「台灣攝影家群像」系列在創作上最佳之選擇。選「台灣攝影家群像」以台灣攝影發展歷史為創作主軸，透過先期的文獻交叉比對，佐以田野調查後選定人選。其創作目的乃是：藉由「攝影家群像」系列作品之形塑，連結十九世紀以降台灣攝影創作發展之網絡，建構台灣影像創作發展史之軌跡及其面貌。

本系列創作之主題為「台灣攝影家群像」，創作的主要內容即「台灣攝影發展史」中代表性作家之肖像。如前所述，本次創作選定台灣攝影家系譜為主軸，攝影家的肖像及其代表性作品為創作之文本，藉由攝影家「肖像」之形塑，筆者企圖連結十九世紀以降，台灣攝影發展之網絡，期能建構台灣影像創作發展歷史之軌跡，並呈現其豐富的內容及面貌。

新的創作形式總帶給我們無限的遐想和反思。攝影既是舊世代以來的記錄形式也是新世紀的藝術表現媒材，當觀念、地景、行動等藝術形式成為過去，影像的存留便成為歷史記錄唯一的憑證和文本，尤其在當今數位影像革命的新紀元，影像藝術已邁進無遠弗屆的網際網路新美學論術場域，其可供開發的領域更顯無盡寬廣，「台灣攝影家群像」系列所揭示的僅是其中的一小部份，殷切期盼更多的園丁投入灌溉行列，讓影像藝術這塊園地能開放出更加璀璨的花朵。筆者藉本次創作論文書寫的機會，重新審視過去20餘年來走過的創作軌跡，得以沉澱思緒、釐清部分關於影像技術或美學上的迷思，是個人藝術生命歷程中深具意義的里程碑！

拋開表現手法、形式意義之探討，回過頭來審視「台灣攝影家群像」系列之創作意旨，卻頗具時空意義。此一主題原就「台灣攝影發展史」研究主題，大量蒐集拍攝了受訪者之肖像及攝影家本人或其家屬提供之代表性之影像資料圖庫，加以構思串聯這些攝影家肖像，並以攝影家代表作品為文本，企圖呈現台灣攝影發展脈絡。如此，這些作品題材也提供了一種作為資料可資參閱，及造形組合機能的載體。作為攝影創作兼教育者，基於台灣攝影發展研究所累積的治學成績，能透過影像呈現、傳輸，不管收納的對象或自身觀點為何，還是體現了台灣影像發展時空軌跡中現階段的歷史意義。

本論文除針對創作過程作深入淺出之探討，最後並以平面作品和光碟短片，展示本系列創作之代表性成果。